

第3回総合戦略策定検討委員会

要点記録

日時：平成27年10月2日（金）

18時00分～20時00分

会場：庁議室

次 第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議題
 - (1) 人口ビジョン素案について
 - (2) 総合戦略素案について
4. その他
 - (1) 次回会議開催日程について
5. 閉会

配布資料

- ・資料1 人口ビジョン修正
- ・資料2 総合戦略（素案）
- ・資料3 結婚・出産・子育てに関する意識調査【概要版、別冊】
- ・第2回昭島市総合戦略検討委員会 要点記録

机上配布

- ・次第

出席者（敬称略）

- 委員長・・・ 松本祐一（多摩大学総合研究所 教授・副所長）
副委員長・・・ 飯田哲也（ハローワーク立川〔立川公共職業安定所〕職業相談部長）
委員・・・ 宗川敏克（昭島市商工会 事務局長）、長島剛（多摩信用金庫 価値創造事業部部長）、勝見真之（連合多摩中央・立川市職員労働組合）、齋藤久未（J:COM多摩 多摩局地域プロデューサー）、元木絵美子（公募市民）、中尾一博（公募市民）、永澤裕（公募市民）

※欠席（なし）

- 事務局・・・ 企画部長、企画部企画政策課長、企画部企画政策課企画調整担当係長
※オブザーバー：産業活性課長

- コンサルタント・・・ 斎藤（株）サーベイリサーチセンター

1. 開会

事務局・・・これより第3回総合戦略策定検討委員会を開催する。

○事務局より配布資料の確認

2. 委員長あいさつ

委員長・・・本日で3回めとなる。本日の議題は大きく2点ある。1点めは、「人口ビジョン」は前回の議論で皆さんから一定の合意を得られたが、先日の庁内検討委員会での修正や追記があったことから、その確認である。次に「総合戦略」の4つの基本目標について、大枠の考え方は、どこの市でも目指しているようなものだが、その中で「あきしまらしさ」をどう表すかということはこの検討委員会では議論してきた。本日はそれを反映して修正・追記された資料が示されているので、議論をしていただくのが2点めである。

3. 議題

(1) 人口ビジョン素案について

○事務局より資料1「人口ビジョン修正」の説明

委員長・・・基本的には、前回の素案に追記・修正をしたものであり、内容的に大きな変更はないようである。この検討委員会で議論された、水や文化の要素も盛り込んでいただいているが、気になるところがあれば質問、意見をいただきたい。(一特になし)それでは、「人口ビジョン」の方向性は、皆さんからの承認を得たものとする。

(2) 総合戦略素案について

○事務局より、資料3「結婚・出産・子育てに関する意識調査【概要版、別冊】」の説明

委員長・・・アンケート調査の結果は、今後の「総合戦略」にも影響を与えると思われるが、特に市民委員の方からは、調査結果と実状に乖離がないか意見をいただきたい。

元木委員・・・就労しながら子育てをしてきた経験から言うと、支えてもらえる環境があることは大切だと感じている。今は昔と違って、共働きが当然のようにになっているが、その反面、子どもが病気の際に預けられるところがないことが、調査結果にも表れている。その辺りの整備が早急に進めば、より良い環境に近づくだらう。

また、地域の高齢者の方々を活用して、子どもたちへ経験や知識、伝統を受け継がせていけるような機会があると良い。

スポーツセンターはいくつかあるが、子どもが安全に遊べる場所として、公園や屋内で遊べる公共施設がもう少し増えると良い。

委員長・・・17ページの「市の子育て環境」では、自然環境や治安の良さから住みやすいという評価が表れていて、昭島市での暮らしに不便を感じるような評価は少ないようだ。但し、子どもを預けたり、子育てと仕事の両立という点では、他と比較して評価が低い。それは11ページの結婚支援に関する行政施策として、「安定的な収入確保のための就職支援をする」がトップにあげられているように、こうした結果にも関連してくるような印象を受けた。

宗川委員・・・17ページの「市の子育て環境」の「保育所や幼稚園の数が多く、子どもが預けやす

い」では、否定的な評価も比較的多く見られる。また、「教育環境が充実している」もやや否定的な評価となっていることからすると、選択肢にはないが、小学校の場合はどうかと気になる。「人口ビジョン」にあった女性のM字曲線を解消するための課題は、この辺りにあると思うので、対応する具体的な施策が必要である。

○事務局より、資料2「総合戦略（素案）」－「基本目標1 安定した雇用を創出する」の説明

※各基本目標にぶら下がる事業は、現在行っている事業、先行型として取り組んでいる事業、過去に実績のある事業、今後予算編成の中で検討していく必要はあるが、実施計画に上がっている事業等も含まれており、庁内検討委員会でコンプライトしたものではない。今後、外部検討委員会、ワークショップ、パブリック・コメントからの意見も踏まえて、引き続き検討する。

委員長・・・4ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」に「あきしまらしさ」を埋め込んだ記述がされている。意見、質問をいただきたい。

長島委員・・・製造業関連の「地域産業を観光資源とした見学ツアー」が昭島らしくて良い。

ここでは、産業振興よりも雇用創出が前提となっているので、“大規模事業所との関係づくりによる雇用維持”という位置付けを明確に打ち出せると良い。その点は5ページの「地域産業基盤定着」という言葉で綴られているが、雇用維持のためには大規模事業所との関係を維持し、雇用を維持することが、今後の昼間人口の増加も含めて有効な手立てとなる。従って、「地域産業基盤定着」という切り口ではなく、“大規模事業所との関係づくりによる雇用維持”といった大胆さを持った方が「あきしまらしさ」につながるのではないか。立川市、武蔵野市、瑞穂町は昼間人口と夜間人口が逆転しているが、これは工場が多く、居住者が少ないことと推測されるのだが、昭島市は居住者もいる上に、昼間人口も比較的多いので、両者を増加させる施策を打ち出していきたい。今は事業所、特に大規模事業所の把握という部分が弱いので、施策のどこかに入れた方が良い。

それと、リタイアメントして地域に埋もれている宝のエンジニアたちを活用していく施策も打ち出せると良い。

宗川委員・・・大規模事業所に対する記述もそうだが、小規模事業所等に対する方向性の記述もあるとありがたい。事業としては6ページに「創業支援」があるが、昭島市の小規模事業所に限って見ると、廃業理由の65%は後継者がいないということである。この「数値目標」は「市内居住者の就業者数の増加を目指す。」だが、そのためにはまず事業所の数が維持されていなければ、就業者数の維持も困難になるため、そのような記述も盛り込んでほしい。

委員長・・・「数値目標」が「増加を目指す」といった定性的な表現となっていることについて事務局から補足を願いたい。

事務局・・・国の「総合戦略」の手引きでは、「数値目標」の表記は、具体的な数値を掲げる他に、定性的な表現でも構わないとされている。ただし、定性的な目標を定めた場合は、何らかの評価ができる数値的な指標等を毎年度検証する必要があるとされている。今回の基本目標1～4の「数値目標」は、「講ずべき施策に関する基本的方向性」に伴って動いてくることから、現時点においては定性的な表記となっている。

- 委員長・・・内容によっては、どのような分野において数を増やすというように、絞り込んだ表記の方が良いかもしれない。ここでは「市内就業者数の増加」であるが、定性的な表記とすると、それはどの産業の分野なのか、大規模事業所か、あるいは小規模事業所かといった括りがないと評価もしづらい。
- 長島委員・・・少し難しい話になるが、昭島市であれば、中核となる事業所と中小事業所との関係の構築は可能ではないかと感じている。中核事業所に対する下請の事業所がいくつかあるが、単にそこにあるだけではなく、中核事業所を中心とした城下町のようなイメージで事業所を集積させることができると良い。それによって、“工業都市である昭島”が明確に出せると思う。このような切り口は、他のまちには見られないものであるため、まちの力強さといった特徴を打ち出しやすくなる。
- 委員長・・・おそらく何らかの形で取引はあるのだろうが、大規模事業所と中小規模事業所との現在の関係性がいまひとつ見えない。
- 長島委員・・・RESASで関係企業を調べてみたか。
- 事務局・・・大きな括りでしか調べていない。
- 長島委員・・・企業名は実名で出ていないか。
- 事務局・・・実名では出ていない。
- 長島委員・・・調べてみれば、意外とあると思う。
- 委員長・・・そうした関係性の有無の調査をして、施策に盛り込むことも必要なのかもしれない。
- 副委員長・・・農業経営者の高齢化の問題として、6ページに「認定農業者支援」と「農業用施設整備支援事業」があげられているが、高齢化に対する方策としては弱い。
- 5ページの事業、「就職フェア In 昭島」はハローワークも共催であるため、今後ハローワークとの連携事業の掲載の際には記述をいただきたい。地元の公共機関であるので、この項目に限らずいろいろな面でお手伝いも可能であると思う。
- 6ページの事業、「女性のための再就職セミナー」は「女性の就業率向上支援」という区分であるが、講演会の開催や再就職セミナーという内容のため、むしろ意識啓発に該当する。雇用創出という意味としては、もっと別の事業が必要ではないか。
- 委員長・・・他にはどうか。
- 元木委員・・・M字曲線にあたる20歳代から40歳代の女性に対する雇用だが、単に雇用を創出すれば良いという話ではなく、希望されている就労形態、職種を踏まえた上で、雇用創出をしていただく方が効果的ではないか。せつかく雇用創出をしても、ミスマッチが起これば、結局、雇用が高まらなかったということにつながりかねない。
- 産業活性課長・・・ターゲットとしなければならないのは、医療・介護の資格を持った方々である。そうした人たちが結婚等で一時期家庭に入られ、その後、復職されるかどうか大きなポイントになるし、効果的であると考えている。
- 委員長・・・今の話は、子育て支援等があれば働き続けられるという話と、魅力的な仕事の有無という2種類に分けられる。女性にとって、仕事があれば良いということではなく、就きたい仕事があるということが大事で、ここでは6ページの「創業支援」なども入ってくるだろう。そこで、明確に大規模事業者向けの話と、中小規模事業者向けの話に分けても良いのかもしれない。「地域産業基盤定着」という面では、市内には大規模な基幹産業と呼ばれる製造業の企業もあるが、6ページの「地域活性化支

援」にもあるように、小規模事業者への支援や小さなビジネスを多く出していこうというものもある。ある調査によると昭島市は小さなビジネスがかなり多い。このようなギャップは、昭島市の特徴的な部分かもしれない。小規模事業所には商店街の部分も含まれるので、それらに関する施策を明確にした方がわかりやすいし、そこに「マッチング支援」、「女性の就業率向上支援」、また「都市農業支援」の話が入ってくると、つながりとしてわかりやすい。「人口ビジョン」にもかつて製造業で働いていた方たちの活用が盛り込まれているので、高齢者の活用という面では、農業に限らず、そうした要素を入れた方がつながりが良い。文言の使い方と整理の仕方を工夫すれば、より「あきしまらしさ」を出せるだろう。

中尾委員・・・例えば「人口ビジョン」にあった女性のM字曲線を、施策を実施して5ポイント上昇させるといった中間的な目標値は、「総合戦略」のどの辺りに記述していくのか。

事務局・・・「人口ビジョン」で掲げたように、西暦2040年に10万6千人、2060年に9万4千人の人口維持が大きな目標である。それを達成するために4つの基本目標にぶら下がるさまざまな事業・施策を展開していく。今、例であげられた女性のM字曲線の5ポイント解消を数値として目標に掲げるならば、4ページの基本目標1の「数値目標」に盛り込んでいく。

委員長・・・「数値目標」を定性的に書くのは1つの案であり、内容によっては具体的な数値を示すこともあるだろう。M字曲線のように一般的になっているものであれば評価もしやすいが、内容次第では評価の難しいものもある。

○事務局より、資料2「総合戦略（素案）」－「基本目標2 昭島へ新しいひとの流れをつくる」の説明

委員長・・・前回の資料では、東の玄関口となる東中神駅が、かなり注目を集める形で書かれていたが、今回は全体像として昭島駅を中心に、西の玄関を拝島駅、東の玄関を東中神駅と描きながら、水と緑といった昭島ならではの魅力を発信していくという内容に修正されている。皆さんからの意見を伺いたい。

中尾委員・・・今回の修正によって魅力的なまちの表現が増したように思う。
7ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」に「深層地下水100%の水道水」と書かれているが、素直に書いてしまっていてインパクトが足りない。東京都の名湧水57選のうち昭島市は2ヶ所が選ばれており、国分寺市や日野市ではもう少し多い。従って、昭島市が特段多いわけではないのだが、それでもそうしたきれいな湧水がある上に、水道水までもが深層地下水100%であると謳えるので、そうするとインパクトが強くなる。

委員長・・・そのように見せ方を工夫するのは大事である。

勝見委員・・・9ページの「フード・グランプリ」や10ページの「公式キャラクターの活用」だが昭島市はこの部分が若干弱い。立川市では、まんぱくや肉フェスを開催して5万から10万人を集めているが、昭島市でも時期をずらして、「あきしまらしさ」があつて、もっと人を呼べるイベントを開催できると良い。

昭島の水であるが、金町浄水場の「東京水」が一時のピークで終わった感があるため、昭島市の水を維持、PRしていくためには、水に限らず、水を使った何かを考

えた方が良い。

10ページの「魅力発信の強化」が一番最後にあるが、重要なポイントとして、もっと前に出すことを検討していただけると良い。

中尾委員・・・「フード・グランプリ」はB級グルメを想定されたものだが、昭島市の伝統的な食材、料理はないのか。まちのぶらぶら歩きの最近の流行は、歴史的なものを回って、最後においしいものを食べるスタイルである。そのようなアイデアをもっと盛り込めると良い。

齋藤委員・・・基本目標は4つあるが、全体に通ずるものだという事からすると、例えば基本目標1で「企業の見学ツアー」を謳うのであれば、基本目標2でも昭島市の産業をPRしながら、かつそれも観光になるということを含めると良い。基本目標2の「講ずべき施策に関する基本的方向性」の最初に鉄道路線のことが出ているのだから、基本目標全体に一貫性を持たせるために、鉄道が運んできた人を、例えばぶらぶらウォーキングの中で工場見学のツアーをするというように、基本目標1を踏襲した内容を盛り込めると良い。他の市と横並びで行うイベントに「あきしまらしさ」を出すよりは、別の切り口から事業を行った方が良いだろう。

委員長・・・確かに各施策のつながりを考えれば、基本目標1の産業観光のようなものは、改めて基本目標2でも書く必要があるように思える。

元木委員・・・昭島市の水で麦茶をつくると買ったものよりもずっとおいしい。そこで企業とコラボして、B級グルメのイベントなどと協賛して麦茶を無料提供したり、飲み比べをしてもらえると面白い。また、これだけ地下水が豊富なら、産業とコラボして発電ということも面白いのではないかという話を主婦レベルではしている。

産業活性課長・・・9ページにある事業、「昭島ブランド構築・推進」は、昭島の水を活かした製品・商品をブランディングするというものである。今年の事業として、水に関する生活とか企業をすべてひとまとめにして、わかりやすい形で発信していこうと事業を進めている。「フード・グランプリ」における提案であるが、「フード・グランプリ」も含めた各種イベントにおいて、水を使った取組みを企業、商店等とまさしく進めている最中である。時間はかかるかもしれないが、何らかの形でご提案が形になるよう進めていく。

委員長・・・「フード・グランプリ」は「産業まつりと併せて開催」とあるので、提案にあったような連携は考えているということである。

産業活性課長・・・「フード・グランプリ」では昭島市の食材を使うとか、昭島市をイメージするようなメニューとか、今までの昭島市の歴史の中で何が名物か、何がおいしいかという、これまで弱かった部分を強化していこうということも進められている。

勝見委員・・・三重県の津ぎょうざが学校給食から発信して、現在B級グルメとして人気が高い。昭島市でも他の分野、学校給食、あるいは民間企業とコラボしてB級グルメを発信していくのも1つの案となるのではないか。

委員長・・・「フード・グランプリ」のようなイベントは各地で増えているし、ゆるキャラもあふれているため、それをポイントにするには相当な特徴付けが必要になる。基本目標2は「昭島へ新しいひとの流れをつくる」ということだから、都市基盤整備からスタートして、観光等による集客、そして実際に魅力を感じて住んでもらうといっ

たことまで含まないといけない。その観光という要素には、昭島に遊びに来て楽しめたで終わらせず、住みたくなるようなアイデアや、水もおいしいだけではなく、ここに住めばずっと飲めるのだと思えるような見せ方もある。また、そこに産業が入ることによって、都心に出なくてもこのまちで就労が可能という見せ方もあるので、そうした記述の仕方が必要だろう。7ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」には、シティプロモーションの視点があるが、単にPRすれば済むというだけの話ではないので、方向性もきちんと記述した方が良い。

宗川委員・・・9ページにある事業、「昭島市民くじら祭」は2日間で延べ8万4千人の来場があった。特に土曜の花火大会は好評で、市民野球場・陸上競技場が満員となった。また、「フード・グランプリ」も昨年は3万人を超える来場者があり、市民の方には一定の認知があるイベントであるということは、PRさせていただきたい。

もう1点は7ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」に、「都市計画マスタープランで『中心拠点』という記述があるが、「都市計画マスタープラン」や「中心拠点」の説明なしに出てくるため、やや唐突さを感じる。

委員長・・・確かにその通りである。「都市計画マスタープラン」という単語は記述が必要かわからないが、ここで言いたいことは、中心となる昭島駅があって、東と西の玄関口となる駅があるということであり、それがうまく表現できていれば良い。市民の方にも祭りやイベントが定着してきて、相当の集客力もあるということだから、今度はいかにしてそれを外の人たちに発信し、呼び寄せることができるか。しかし来てもらうには周りの市との競争で、より独自性や面白さが必要となる。その辺りを意識した記述をお願いしたい。

○事務局より、資料2「総合戦略（素案）」－「基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の説明

委員長・・・ここでは結婚して出産という流れの中でさまざまな支援をしていくということがまとめられている。11ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」を中心に議論していきたい。

長島委員・・・他のまちに比べて、市民活動、NPO等が施策の中にほとんど出てこないことに物足りなさを感じる。その理由としては、良い意味で、人と人とのふれ合いがある田舎のまちであるからであり、そこが良いと言う人も多いただろう。しかし、新しい人の流れをつくって若い世代が増えていけば、その人たちが広い意味で雇用、あるいは起業にもつながるのだから、女性の就業率向上やシニアの活力も含め、今後のためにも市民活動、NPO等を検討していくことは多少でも記述した方が良いのではないか。あるいは12ページからの施策・事業にそうした活動の育成のことが記述されると良い。

中尾委員・・・お話しカフェや地域でコミュニケーションの場を提供するということが、また、全体として世代間交流の施策がまったくない。経験豊富な高齢者への相談、あるいは同じ年代同士が悩みを話し合える場の提供に行政がサポートできると良い。

永澤委員・・・確かに世代間の交流は大事である。

委員長・・・12、13ページにある施策・事業を見ると、行政から市民に対する支援が占めており、

市民同士が助け合ったり、世代に関係なく相互に何とかし合える仕組みを行政が支援するというものが見当たらない。もう少し市民の自主性等を喚起したり、伸ばしたりしていくような表現、および施策・事業が必要だろう。

長島委員・・・おそらく市役所がNPOのような役割をしてしまっているためではないか。それはそれでかなり魅力的なことだが、もっと市民の力を信じて良い。

事務局・・・確かに昭島市では、従来から市民活動、NPOは著しく少ない。

長島委員・・・立川市まではそうした活動が盛んだが、青梅線に入ってくると、どこのまちも活動が少ない。

委員長・・・そこは都市との差という部分もあるだろう。結局、コミュニティがなければサービスに頼るしかない。そこで、サービスを提供するNPOが現れてくるという原理である。

事務局・・・そういう意味では、昭島市はまだ地域に根差したものがある。市のスタンスとして自治会を地軸に備えているが、長い目で見れば、いずれ転機が訪れるような気はしている。

委員長・・・若い世代の人たちは、既存の自治会等と関わるのではなく、コワーキング・スペース、あるいはコミュニティカフェのような形を取るなど、彼らなりのまちへの関わり方や、まちづくりへの参加のスタイルがある。そのような流れが、他の市でも見えていることから考えると、おそらく今後、より都市化していく傾向は止められないし、かつ若い世代を呼び込もうとしているということは記述しておけると良いし、できればそうしたことを踏まえた施策・事業も考えられると良い。

事務局・・・昭島市はそもそも数か所の集落が集結したまちだから、各地域の祭りも盛んになっている。市役所としては、そうした地場にある伝統に関わるさまざまなイベントをもっと地域の中で行っていきたい。また、災害対応の面では、共助という精神から、自治会の自主防災組織が中心となって動いていかないといけない。そういう意味では市の東の自治体とは趣が違うのかもしれない。

長島委員・・・だからこそ、垢抜けたスタイルを取らずに、そのままを出してしまった方が逆に魅力的なのではないか。都会の田舎のようなところに魅力を感じて住む人たちも多く、地縁があるからこのまちに住み続けられるという話もよく耳にする。

委員長・・・そのような地縁コミュニティや支え合いがあるということは、堂々と記述して、大きなポイントとして掲げても良いかもしれない。

長島委員・・・“地縁のコミュニティをクールに語るまち”といったイメージをつくるのが、逆に良い場合もある。「あきしまらしさ」はその辺りにあるのではないか。

委員長・・・むしろ他のまちでは、そうしたものが失われつつあって困っているところだから、それは胸を張っても良いことだろう。

中尾委員・・・先ほどのアンケート調査結果に戻るが、17ページの「市の子育て評価」で「いじめなどがあまりなく、安心して子どもを育てられる」は評価が最も低い。地縁コミュニティがあるならば、安心して子どもは外で遊べると思うが、データとしてはネガティブな印象を持つ方が多くなっていることに疑問を感じる。

事務局・・・国では、これまで表面化されにくかったいじめについて、より深く捉えるため、教育委員会を中心にした取組みを各学校で行うよう指導している。昭島市のいじめも

表面的な部分では東京都全体の中ではそう多くなかったのだが、従来捉えていたものよりは、数値としては著しく上がってきている。ご指摘の項目の評価が低いのは、アンケートの標本数が多くないこと、また、「わからない」という回答が46.4%と多いことも影響しているのかもしれない。いじめは当事者としては深刻な問題であるし、昭島市では“いじめは絶対に許さない”という基本姿勢で、教育委員会を中心に取組みを行っているのだが、市民の皆さんからすると、まだそこは定着できていないという印象があるのかもしれない。

委員長・・・回答者の心理として文章の前半に重きを置く傾向がある。「安心して子どもを育てられる」という部分より「いじめなどがあまりなく」という言葉に反応して回答してしまう。だから、就学児童を持たない回答者からは「わからない」という回答が増えてしまうのではないか。そのような言葉の問題もあるので、評価が低いことをそのまま捉えてしまうのはどうかという気もする。

齋藤委員・・・調査結果に関連すると、「子育てと仕事の両立がしやすい」の評価が低い。それに対して「総合戦略」の基本目標3の11ページ、「講ずべき施策に関する基本的方向性」で子育てと仕事の両立しやすさという目標が漠然としているので、具体的な解決策を入れた方が良い。「保育所や幼稚園の数が多く、子どもを預けやすい」や「保育サービスが充実し、安心して子どもを預けられる」の評価が低いことも、「子育てと仕事の両立がしやすい」の評価の低さにつながっているのではないか。基本目標2の11ページ、「数値目標」には「保育所入所待機児童数の減少を目指す。」「学童クラブ入所待機児童数の減少を目指す。」とあって、「講ずべき施策に関する基本的方向性」には就職支援や職場の環境整備の記述はあるが、子どもをどうするかということも記述した方が良い。企業が働きやすい職場を目指すことは当然大切だが、一方で預かってくれる側のサポートもしっかりとしていることが魅力の1つとなる。

委員長・・・基本目標2「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」という表現のため、そこまで含めて記述しておかないと、魅力に欠けるだろう。

○事務局より、資料2「総合戦略（素案）」－「基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」の説明

委員長・・・ここでは、環境と安全・安心という話とともに、周辺地域との連携というように、いくつかの要素が盛り込まれているため、やや漠然とした印象を受ける。

長島委員・・・基本目標は4つに限定されているのか。

事務局・・・4つに縛られる必要はない。

委員長・・・時代にあった地域づくり、安心なくらしを守る、地域と地域の連携というそれぞれの話が含まれているわけだが、特に昭島市として力点を置く部分を決めて重みづけをした方が良いかもしれない。

14ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」にある「公共施設へのニーズの変化への対応」とは、どのような意図で追記されたのか。

事務局・・・「人口ビジョン」で分析した少子高齢化と人口減少がもたらす地域の公共施設への影響を踏まえて記述したものである。

- 長島委員・・・気になるのは福祉の記述が全体的に少ないことである。見たところ、15ページにある事業、「地域包括ケアシステムの構築」、「イキイキニコニコ介護予防教室」の2つにとどまっている。
- 事務局・・・高齢者の福祉に特化した「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の最大のポイントは「地域包括ケアシステムの構築」であり、この地域包括ケアシステムの趣旨は、要介護状態になってもいつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるということである。これに関連して取り組んでいるものが「イキイキニコニコ介護予防教室」等であるため、連携する形で記述している。
- 長島委員・・・他の「総合基本計画」をはじめとする関連する各種計画と照合した際に、福祉の記述が少ないことが気になった。確かに国でもすべて盛り込むようには言っていないので、これで特に問題はないと思う。
- 事務局・・・確かに高齢者の地域包括ケアシステムは必要なことであるので、もう少し書き込みをした方が良くもしいかな。
- 「総合基本計画」との関連という点では、昭島市の普遍的な理念として第三次から現行の第五次の「総合基本計画」において「環境との共生」を掲げていることもあり、「総合戦略」においても、この「環境との共生」という視点は重視していきたいと考えている。
- 委員長・・・14ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」では「環境との共生」、福祉、安全・安心が単純に3つ並べて記述されているだけだが、「環境との共生」が従来からの大きなコンセプトであれば、まずは「環境との共生」を大事にしてきたことを謳わないといけない。そして福祉や安全・安心を絡めて1つのストーリーとしてつながっているような書き方をしていただいた方がわかりやすくなる。
- 中尾委員・・・その14ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」の1段落めが、基本目標2と重複しているため違和感がある。
- 委員長・・・基本目標2は、新しいひとの流れをつくるわけだから、開発を含め今後の昭島をどうプラスしていくかということである。基本目標4は、従来から「環境との共生」を大事にし続けているわけだから、今後もそれは変わらないということがこの中心の話である。但し、それは時代に応じて変わっていくわけだから、その時代や人口構成に合わせて手法を変えていくといった文脈である。従って、一番大事なところがここに係ってくる、基本目標の締めとなる部分となる。そこは意識して記述していただきたい。
- 齋藤委員・・・基本目標1でさまざまな技術を持った高齢者の有効活用という話が出てきたので、それと併せて、14ページの「講ずべき施策に関する基本的方向性」に「高齢者となっても可能な限り住み慣れた地域で、～（中略）～まちづくりを進める」に、その結果が記述できると全体がまとまるのではないかと。そうした紐付けがあるとわかりやすい。
- 委員長・・・基本目標1～3までが川の支川だとすれば、「環境との共生」という大コンセプトのある基本目標4にまとまって合流してくるイメージなのかもしれない。従って、4つの目標のつながりや関係を、より明確に表現できると良い。そこに昭島市の独自性が見えてくると思われるので、事務局に工夫をお願いしたい。

宗川委員・・・「あきしまらしさ」を出すための施策・事業をハードの面から見ると、15ページの「環境を通じた連携」ぐらいしかない。例えば地下水100%を維持するために、市の施策として雨水浸透施設設置をされているが、そうしたものは施策・事業に入ってきてても良いのではないか。

委員長・・・他には何かあるか。(一特になし)

4. その他

(1) 次回会議開催日程について

事務局・・・次回は10月30日(金)午後6時からの開催となるので、皆さんの協力をお願いしたい。ワークショップは11月7日(土)の午後1時から3時間程度と予定し、広報で呼びかけている。改めて委員の皆さんにはご案内するが、ご都合がつけば参加をお願いしたい。

5. 閉会

委員長・・・それではこれにて「第3回総合戦略策定検討委員会」を終了する。